**MRI用 検査説明書**

|  |
| --- |
| **造影MRI検査を受けられる方へ**  　お名前　　　　　　　＿＿＿＿＿＿＿　　様   1. 造影MRI検査とは   造影MRI検査とは、ガドリニウムを含んだ薬を血管内に注射して行うMRI検査で、病変の存在や症状などが詳しく描出され、診断に大変役立ちます。また、病気の種類によっては造影剤を使用しなければ診断・治療に必要な情報が得られないことがあります。特別な肝臓の検査では鉄分を含んだ薬を用いることもあります。   1. 造影剤の副作用   検査に際しては、その時点での症状や以前にかかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから、下記の様な副作用症状が起きることがあります。  **・軽い副作用（頻度は約0.5%以下）**  **吐き気・嘔吐・頭痛・めまい・発疹・かゆみ・発熱・咳など**  **（鉄分を含んだ薬の場合、特に腰痛や背部痛が起こることがあります。）**  **・重い副作用（極めてまれで1万人に1人以下）**  **まれにショックやアナフィラキシー様反応（例えば呼吸困難や血圧低下など）が生じることがあります。（鉄分を含んだ薬の場合、重い副作用が起きる頻度は不明です。）**  **・腎臓の機能が低下している方・糖尿病の方は一時的に腎臓の機能がさらに悪くなる場合があります。**  **・合併症として造影剤が漏れた時の静脈炎の可能性があります。**  以下の既往のある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強く出る場合もあり、造影検査を行わないことがありますので、必ず問診票の記入をお願い致します。   1. 今までに造影剤による症状を起こしたことのある方 2. 気管支喘息などのアレルギー性疾患のある方 3. 他の薬剤過敏症や蕁麻疹などのアレルギー歴のある方 4. 腎臓機能低下を言われている方 5. 副作用の予知について   初めて造影検査を受けられる方、または今まで造影剤による症状を起こしたことのない方が、今回の造影検査で副作用を起こすかどうかをあらかじめ調べる方法は現在のところありません。   1. MRI検査を行えない場合   手術や他の治療によって磁性のある金属が体内にある場合など、造影の有無に関わらず、検査が施行できない場合がありますので、あらかじめお申し出下さい。  例：心臓ペースメーカー・脳動脈クリップ・金属製入れ歯・人工骨頭・入れ墨など  　　注：以上の説明をご理解いただいた上で、別紙の同意書にご署名をお願いします。  同意書に記入された後でも、いつ造影検査を拒否されてもかまいません。  尚、ご不明な点は担当技師または下記にお問い合わせ下さい。  古河赤十字病院　医療技術部放射線技術課  　　　　　　TEL 0280-23－7111 |